

東北教区報 2022年11月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
「ザアカイさんと十字架」

司祭 フランシス 長谷川 清純

特定26（11月2日に近い主日・週日）の福音書に登場するザアカイから黙想します。テーマは「本当の自分とは何者か」です。

彼は年齢不詳の税金取り立て役人、徴税人の頭で金持ちです。その世界では立場ある身分ですが、世間からはローマ帝国の回し者、イスラエル人から金をぶんどる悪人で嫌われ者です。親友とか気心知れた友人はなく背が低い。それゆえにいくつものコンプレックスを持っていて、後ろめたさや申し訳なさ、不満、気後れなどが心中に鬱積していたでしょう。さびしいよと声に出さず呻いていたかもしれない。そのように見受けられます。

そんな彼の前に、うわさのイエスさまが出現してきました。運良く目の前にそのお方がいます。彼は衝動に駆られます。ここぞ、とばかりに彼は走ります。彼の心の内にある呻きに突き動かされて行動となつて表出します。彼は走つて先回りをして、背が低い、前に立ちはだかる人た



ちには遮られて見えないから、イチジク桑の木に登るのです。一生懸命になると、機転が利きます。障がいや乗り越えるのにそこにあるものを何でも利用する、そこにあるものが実は役に立つということのようです。木に登ると目線の高さが変わります。俯瞰するとそれまで見えていなかったものが見えてきます。全体を眺められると余裕も生じて、視点が変化します。こうして彼はイエス様を発見し出会います。そして彼のものの凄く熱い視線がイエス様に降りかかっていきます。

人の魂に敏感なイエス様は、放射されている魂の波長を感じて、ザアカイにお声を掛けます。人の心の根底にある渴望とか要請に100%応じるイエス様がここにいます。「ザアカイさん、急いで降りてきたらどうです。今日は、私はあなたのお宅に泊まることになっています」。これはイエス様からのお応え、お招きの優しいお言葉です。「……ことになっていきます」は神の必然です。それは神のみ業と、いうことで、イエス様とザアカイの間で神様のみ業が遂行されます。

この出会いでザアカイは生まれ変わります。イエス様の言葉が、実はザアカイの本当を引き出すきっかけとなります。ザアカイの本当とは、すなわち貧しい人への施し、欺っていたことへの償いです。つまりは、彼の本音が飛び出してきたのです。彼の本当の喜びが見つかった瞬間です。彼の喜びの大きさが、生き方の大変化へと繋がっていくことは明らかです。

「今日、この家に救いが生じた」これは究極の宣言です。自分の本当によつて生きることはとど幸せなことはありません。これ以上に嬉しいお言葉はないでしょう。

イエス様はイチジク桑の木の下に立ち、ザアカイを見つめます。私たちは十字架の下に立ちイエス様を見上げています。十字架の下には2種類の人が立っています。「神の子なら、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう」とのしる人と、そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言う人です。イエス様が木に登つてザアカイの隠れた真の生の要望を満たされたように、私たちも見上げた先におられる方のみ心・み旨に触れ、目覚められたら誠に幸いです。

(青森聖アンデレ教会牧師)

去る9月10日(土) 午後1時から奉仕職養成グループ主催の研修会「奉仕のススメ」をオンラインにより開催いたしました。「奉仕のススメ」は昨年から行われ、今回が第3回目となりました。

奉仕職養成グループ主催研修会 「奉仕のススメ」 part3 開催

渡部 拓司
祭(福島聖ステパノ教会牧師)と八代現さん(仙台聖フランシス教会信徒・信徒奉仕職養成グループメンバー)から、それぞれ聖職者、信徒としての奉仕の喜びが発題され、大変豊かな一時となりました。

参加者は奉仕職養成グループメンバーを含め10教会39名でした。今後この集いを続けていきたいと思っています。

(グループリーダー

司祭 林 国秀)

参加者からの声

大館聖パウロ教会

マーガレット 武田 紘子

仙台聖フランシス教会日曜学校のご報告を受けて、八代さん始めスタッフ皆さんの大きな働きを思い敬意を表します。当教会とは相違点が多く参考になるかしらと思いつつ伺っておりまして。終了後考えさせられることが多く、もっと詳しく伺えたと反省しきりでした。まずは、未信徒で幼稚園OBの社会人スタッフの存在です。礼拝後の過ごし方に楽しい工夫がたくさんちりばめられていて、学ぶことが多々ありました。当日曜学校では、5年程前から高齢の3人が交代で加わりました。礼拝の進行は子どもたち、お話しは司祭様、不在の時は私たちがさせて頂いています。幼稚園の先生達は全体的に見守りとオルガン担当です。礼拝後の時間は手づくりの物を使った昔ながらの遊び(紙飛行機、絵あわせ、ブンブンこま等)も大切に伝えていきたいです。各教会に与えられた

状況の中で、出来ることから始めたいと思います。今回参加してやる気を促して頂いたことを感謝します。後半の渡部司祭様は聖職者となられる

までの歩みを真摯に語られ感銘を受けました。幼い頃より教会生活を身近に感じながら中学へ進まれた以降は教会から遠のき、やがて一般企業へ就職されます。そこで大きな困難に遭われ心身を壊すことになり、救いを求めたのは幼い頃から親しんできた教会でした。似た様な体験をした私にはまさに我が意を得たりの思いでした。かつて故笹森司祭様より「あなたは聖職者になりなさい」と言われたこと、当時の加藤主教様がよく耳を傾けて思いを受け止めてくださり聖職者への道へと導いてくださったこと、教会の皆様も同様で、そのことが癒しとなり救いとなったのです。

やはりご自身で自覚して再び門をたたかれたからこそ、道が開かれたのですね。貴重な体験を現在他の方々へ耳を傾け活かしておられること、主に感謝です。今後とも大切な教役者の一員としてのご活躍とご健勝を心より祈念致しております。

仙台基督教会

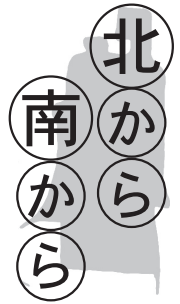
パウロ 中村 賢治

9月10日にオンラインによる研修「奉仕のススメ」に参加しました。「教会での奉仕の喜び」の発題で、日曜学校の奉仕をされている信徒の方と、社会人として働く中で聖職を志した司祭のお二人からお話をお伺いしました。

僕は、日本聖公会とは別の教会幼稚園に通っており、日曜学校もありました。日曜学校に行くとき小さなカードが貰えて、それを集めるのが楽しみでした。イエス様のたとえ話がイラストで描かれていて、その名刺サイズのカードを貰うと、専用のノートに貼っていました。日曜学校に行けない日があるとカードは貰えませんが、その分は空白になります。カードが貰えなくて凄く残念な気持ちだった、それが日曜学校の一番の思い出です。

一方で僕も「いわゆるクリスチャンホーム」に生れた人間で、小さい時から月に一度、家族で仙台基督教会に行くのが楽しみでした。それが毎週はその日曜学校に行けなかった理由なのですが、日曜日に教会に行くことは当たり前と、子どもの時から思っていました。社会人になって、平日しか休めない時期が15年ほどあり、その頃は教会に行きませんでした。日曜日が休みの仕事になると、「また教会に行ってみよう」と、ごく自然に思いました。15年ぶりの教会はよく知らないばかりで、建物自体も昔の教会ではありませんでした。皆さんに温かく迎え入れていただきまして「帰ってきた」という実感が、どこからか湧いてきたのを今でも覚えています。

そういう訳で、お二人の話は別々の内容でしたが、一本のつながったストーリーとして聞きました。また僕自身、8月からサーバーとして、新たに奉仕させていだいていきます。自分が受け取った温かさを隣の誰かに渡せることが、僕の「奉仕の喜び」だと考えています。もっと積極的に奉仕していきたいと思っています。



福島聖ステパノ教会

9月11日の主日に巡回として吉田雅人主教が来福されました。来年退職される吉田主教との、福島聖ステパノ教会でのひとまずの最後の交わりとして、聖餐式と豊かな時を過ごすことができました。また吉田主教の礼拝説教においては、ルカ福音書15章での「一匹の羊」を見つけて喜びイエス様と共に喜び合える人・教会になることの大切さという、み言葉の新しい視座を与えられましたことも印象深い時間となりました。

新庄聖マルコ教会

新庄では8月に(臨時)堅信受領者総会を開催し、宗教法人を東北教区と合併し、教会は山形聖ペテロ教会と合併することを決議しました。時を同じくして鶴岡聖公会も山形と合併する決議をなさったのは残念なことです。教区会

洗礼おめでとう

アンドレア 長谷川 裕理
ヨハンナ 長谷川 結実
モニカ 長谷川 優芽
(9月18日・青森)

初陪餐おめでとう

アンドレア 長谷川 裕理
(9月18日・青森)

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

9月の地域活動です。「お買い物支援バス」(毎週木曜日実施、名取市)は5回行われ、延べ26名が利用しました。「水曜喫茶」(月1回、新地町)は9月21日開催され、7名参加でした。「広畑お茶会」(月1回、新地町)は9月30日開催され、17名の参加でした。広畑お茶会は今回で第100回になりました。福島県新地町では、2011年東日本大震災発生直後の3月12日、

磯山聖ヨハネ教会周辺の埴浜地区は福田小学校体育館が避難所になりました。その後、新地町は地域毎に被災者を仮設住宅に集約する方針をとり、教会のほとんどの信徒家族が広畑応急仮設住宅に住み、地域住民は仮設で共同生活を送りました。その年の9月、仮設住宅に設けられた集会所で第1回目の「お茶会」を始めました。以来月1回ペースで開いてきましたが、100回を機に年内の12月まで3回で終了することにいたしました。感謝! (司祭 長谷川清純)

常置委員会報告

(第11回・9月16日)

◇協議事項

◆奉仕職養成グループからの研学資金申請について…刊行物出版に研学資金の充当を承

「TEEN's 中高生プログラム」(仮)

予定日時: 2023年1月21日(土)
10:00~15:00 於: 仙台
長らく休止していたTEEN'sが再始動します! 楽しいプログラムを予定しております。詳細をお待ちください!

11月逝去者記念聖餐式

11月1日(火) 午前10時

於 主教座聖堂

司式 吉田 雅人 主教
説教 李 贊熙 司祭

主教 ライト前川 眞二郎

1953年11月1日逝去

宣教師 Miss Bessie McKim

1973年11月5日逝去

司祭 西村 敬太郎

1971年11月7日逝去

司祭 マルコ植松 金蔵

1975年11月7日逝去

伝道師 松下 一郎

1918年11月10日逝去

司祭 大野 要蔵

1938年11月11日逝去

司祭 ヨハネ伴 君保

1956年11月11日逝去

司祭 ガブリエル稲沢 忠信

1988年11月12日逝去

司祭 今井 献

2007年11月27日逝去

伝道師 白石 村治

1929年11月28日逝去

女執事 Miss Anna Love Ranson

1969年11月28日逝去

10月中旬発売 聖公会手帳 2023年版

※2023年度版会暦・日課表を完備収録
※西表紙に銀文で「日本聖公会」と明記
※祈りの詞を大幅増補し、利便性を追求

大型判 2,200円(税込)
ポケット判 1,200円(税込)

お申込みは、バプルス・南青山まで
03-3460-7100
※インターネットによる注文可能

11月27日は「人権活動を支える主日」です。人権を守るための様々な活動を覚えて祈り、献金をお献げください。